



北浦小だより

令和2年5月12日

(HP) <http://www2.sopia.or.jp/kitauracl/>

Hop Step Jump

ホップ・ステップ・ジャンプ

第4号

文責:校長 武田 民弥

「自分の命は自分で守る」…根っこの意識を伝えたい

本校のグランドデザインの重点目標の一つとして、「児童の安全確保と『**自分の命は自分で守る**』姿勢の育成」を示しています。重点目標は子どもの実態や前年度の課題から設定するものですが、この目標は校長としてゆるぎないものと考えています。



「命を大切にする」というのは、当然最も大切なことですが、学校現場では突発的な事故が起きることがあります。そのために、学校生活ルールとして、「廊下を走らない」「決まった場所でボールを使う」等を決めています。しかし、児童は「机の上に乗って遊んだ」「体育館のギャラリーに無断であがった」「友達に向かってものを投げた」といった「**小さな悪ふざけ**」から取り返しのつかない事故が起きてしまうことがあります。そのため、私は「命を守る」ことにこだわり、児童に「**自分の命は自分で守る**」姿勢を育てたいと考えています。

私事になってしまいますが、我が娘が5歳とき、弟が乗るベビーカーを押す親より先に、左右も見ないで道路を渡ろうとしました。「自分の目で左右を見なさい。車に注意して渡るんだよ。」と何度教えても、友達と一緒にになってテンションが上がると忘れてしまいました。子どもなんてそんなものだと思います。私はやはり娘を事故で失いたくないから道路のそばで即座に叱りました。娘が泣くほど、真剣に叱りました。(今思えば、場や周囲のことを考えて諭す指導もあったのかなと反省していますが…。)

北浦小学校下の国道354号線T字路の横断歩道では、通学時に必ず保護者や見守り隊の方が立ってくれています。その安心感からか、児童は自分で周りを見ないで、下を向いたり、話しながら横断しています。安全上、「早く渡りなさい!車が来てるよ!」と、つい声が出てしまいます。でも、こうして先回りして児童を守ることだけが、本当に彼らのためになっているのだろうかと考えてしまいます。せめて、信号機のボタンは児童が押し、左右を確認して自分の判断で渡れるように見守っていきたくと思います。

話が変わりますが、災害時に「1人で家にいる子供」をどうしますか。公民館や本校が避難所になると思われます。子供は、自分で判断して避難所へ避難できるのでしょうか。近所の大人に助けをもとめることができるのでしょうか。親が子供を避難所へ連れてこれる家庭はいいが、自宅に1人でいる子供がいて、情報が入らず、周りで火事が起こっていても気付かないかもしれません。避難すべきか、自宅にいるべきか判断にも困ると思います。**家族との連絡を自分の力でとれるようにしておくことも「自分の命を自分で守る」ことになります。**

現在は、全都道府県に緊急事態宣言が発令され、感染拡大を防止する為の行動が全国民に求められる中、4月18日(土)には新型コロナウイルスの感染確認者が10,000人を超えたことが報告されました。感染拡大を防ぐため、一人一人が誰かを思いやり、誰かの命を守るために必要な行動を呼びかけています。

一人一人が感染防止に努めることは、自分の命を守るだけでなく、家族や友人、私たちのために今日も働いている人々、医療従事者のみなさん、そして世界中の人々の命を守ることにつながっています。

一人一人が持つ思いやりの意識が、日本だけではなく世界中の人々の命を救うきっかけになると思います。これまでも「保健だより」等で何回も呼び掛けてきました**予防対策を自分の命、周りの人の命を守る活動として再確認し、確実に行動してほしい**と思います。

感染予防は「**自分の顔を触らないこと**」が最も効果的です。人は1時間に平均23回も自分の顔を触っていると言われています。知らない間に口や鼻、目などの粘膜を触るクセがある人は多いものです。ウイルスのついた手が粘膜に接触することで感染が起きています。みんなで教え合いましょう。助け合いましょう。



国内では緊急事態への対応が少しずつ解除されてきています。**まだ感染が広がっていない我々にとっては、これからの方がしっかりと対策が必要だ**と思います。「こまめな手洗い」「人と人との一定の距離(およそ2m)をとることを意識しよう」「不要不急の外出はしない」等も大切です。小さな思いやりが、大きな命を守ります。自分の命は自分で守る姿勢をもち続けてください。

※ 学校からのお願い・お知らせにつきましては、メール及び本校ホームページで御確認ください。